

社会福祉法人 福岡ろうあ福祉会

定 款

目 次

- 第一章 総則(第一条—第四条)
- 第二章 評議員(第五条—第八条)
- 第三章 評議員会(第九条—第一四条)
- 第四章 役員及び職員等(第一五条—第二三条)
- 第五章 理事会(第二四条—第二八条)
- 第六章 資産及び会計(第二九条—第三六条)
- 第七章 解散(第三七条—第三八条)
- 第八章 定款の変更(第三九条)
- 第九章 公告の方法その他(第四〇条—第四一条)
- 附 則 1－2

第一章 総則

(目的)

第一条 この社会福祉法人（以下「法人」という。）は、多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援することを目的として、次の社会福祉事業を行う。

(1) 第一種社会福祉事業

(イ) 障害者支援施設の経営

(ロ) 養護老人ホームの経営

(名称)

第二条 この法人は、社会福祉法人福岡ろうあ福祉会という。

(経営の原則等)

第三条 この法人は、社会福祉事業の主たる担い手としてふさわしい事業を確実、効果的かつ適正に行うため、自主的にその経営基盤の強化を図るとともに、その提供する福祉サービスの質の向上並びに事業経営の透明性の確保を図り、もって地域福祉の推進に努めるものとする。

2 この法人は、地域社会に貢献する取組として、聴覚障害者等を支援するため、無料又は低額な料金で福祉サービスを積極的に提供するよう努めるものとする。

(事務所の所在地)

第四条 この法人の事務所を福岡市西区大字田尻字十王田2542番地に置く。

第二章 評議員

(評議員の定数)

第五条 この法人に評議員9名以上11名以内を置く。

(評議員の選任及び解任)

第六条 この法人に評議員選任・解任委員会を置き、評議員の選任及び解任は、評議員選任・解任委員会において行う。

2 評議員選任・解任委員会は、監事2名、事務局員1名、外部委員2名の合計5名で構成する。

3 選任候補者の推薦及び解任の提案は、理事会が行う。評議員選任・解任委員会の運営についての細則は、理事会において定める。

4 選任候補者の推薦及び解任の提案を行う場合には、当該者が評議員として適任及び不適任と判断した理由を委員に説明しなければならない。

5 評議員選任・解任委員会の決議は、委員の過半数が出席し、その過半数をもって行う。ただし、外部委員の1名以上が出席し、かつ、外部委員の1名以上が賛成することを要する。

(評議員の任期)

第七条 評議員の任期は、選任後四年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとし、再任を妨げない。

2 任期の満了前に退任した評議員の補欠として選任された評議員の任期は、退任した評議員の任期の満了する時までとすることができる。

3 評議員は、第五条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお評議員としての権利義務を有する。

4 評議員の年齢については、就任日現在80歳未満とする。

(評議員の報酬等)

第八条 評議員に対して、各年度の総額が400,000円を超えない範囲で、評議員会において別に定める報酬等の支給の基準に従って算定した額を、報酬として支給することができる。

第三章 評議員会

(構成)

第九条 評議員会は、全ての評議員をもって構成する。

2 評議員会に議長を置き、議長はその都度評議員の互選で定める。

(権限)

第一〇条 評議員会は、次の事項について決議する。

- (1) 理事及び監事の選任又は解任
- (2) 理事及び監事の報酬等の額
- (3) 理事及び監事並びに評議員に対する報酬等の支給の基準
- (4) 事業計画書及び収支予算書の承認
- (5) 計算書類（貸借対照表及び収支計算書）及び財産目録の承認
- (6) 定款の変更
- (7) 残余財産の処分
- (8) 基本財産の処分
- (9) 社会福祉充実計画の承認
- (10) その他評議員会で決議するものとして法令又はこの定款で定められた事項

(開催)

第一一条 評議員会は、定時評議員会として毎会計年度終了後3ヶ月以内に1回開催するほか、3月及び必要がある場合に開催する。

(招集)

第一二条 評議員会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事会の決議に基づき理事長が招集する。

2 評議員は、理事長に対し、評議員会の目的である事項及び招集の理由を示して、評議員会の招集を請求することができる。

- 3 評議員会を招集するには、理事長は、評議員会の日の2日前までに、評議員に対して、書面でその通知を発しなければならない。

(決議)

第一三条 評議員会の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の過半数が出席し、その過半数をもって行い、可否同数のときは議長の決するところによる。

- 2 前項の規定にかかわらず、次の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の3分の2以上に当たる多数をもって行わなければならない。

- (1) 監事の解任
- (2) 定款の変更
- (3) その他法令で定められた事項

- 3 理事又は監事を選任する議案を決議するに際しては、各候補者ごとに第1項の決議を行わなければならない。理事又は監事の候補者の合計数が第15条に定める定数を上回る場合には、過半数の賛成を得た候補者の中から得票数の多い順に定数の枠に達するまでの者を選任することとする。

- 4 第1項及び第2項の規定にかかわらず、評議員（当該事項について議決に加わることができるものに限る。）の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、評議員会の決議があったものとみなす。

(議事録)

第一四条 評議員会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

- 2 議長及び会議に出席した評議員のうちから選出された議事録署名人二名は、前項の議事録に署名し、又は記名押印する。

第四章 役員及び職員等

(役員の数)

第一五条 この法人には、次の役員を置く。

- (1) 理事 8名以上10名以内
- (2) 監事 2名

- 2 理事のうち一名を理事長とする。

- 3 理事長以外の理事のうち、1名を副理事長、1名を常務理事とし、副理事長及び常務理事をもって社会福祉法（以下「法」という。）第45条の16第2項第2号の業務執行理事とする。

(役員を選任)

第一六条 理事及び監事は、評議員会の決議によって選任する。

- 2 理事長、副理事長及び常務理事は、理事会の決議によって理事の中から選定する。

(理事の職務及び権限)

第一七条 理事は、理事会を構成し、法令及びこの定款で定めるところにより、職務を執行する。

- 2 理事長は、法令及びこの定款で定めるところにより、この法人を代表し、その業務を執行し、副理事長及び常務理事は、理事会において別に定めるところにより、この法人の業務を分担執行する。
- 3 理事長、副理事長及び常務理事は、毎会計年度に4箇月を超える間隔で2回以上、自己の職務の執行の状況を理事会に報告しなければならない。

(監事の職務及び権限)

第一八条 監事は、理事の職務の執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成する。

- 2 監事は、いつでも、理事及び職員に対して事業の報告を求め、この法人の業務及び財産の状況の調査をすることができる。

(役員任期)

第一九条 理事又は監事の任期は、選任後二年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとし、再任を妨げない。

- 2 補欠として選任された理事又は監事の任期は、前任者の任期の満了までとすることができる。
- 3 理事又は監事は、第一五条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお理事又は監事としての権利義務を有する。
- 4 役員年齢については、就任日現在80歳未満とする。

(役員解任)

第二〇条 理事又は監事が、次のいずれかに該当するときは、評議員会の決議によって解任することができる。

- (1) 職務上の義務に違反し、又は職務を怠ったとき。
- (2) 心身の故障のため、職務の執行に支障があり、又はこれに堪えないとき。

(役員報酬等)

第二一条 理事及び監事に対して、評議員会において別に定める総額の範囲内で、評議員会において別に定める報酬等の支給の基準に従って算定した額を報酬等として支給することができる。

(職員)

第二二条 この法人に、職員を置く。

- 2 この法人の設置経営する施設の長は、理事会において、選任及び解任する。
- 3 施設の長以外の職員は、理事長が任免する。

(顧問及び参与)

第二三条 この法人に顧問及び参与若干名を置くことができる。

- 2 顧問及び参与は、理事長が委嘱する。
- 3 顧問は、重要な会務について理事長の諮問にこたえる。
- 4 参与は、会務について理事長の諮問にこたえる。
- 5 顧問及び参与の任期は、2年を限度として理事長が定める。

6 顧問及び参与は再任されることができる。

第五章 理事会

(構成)

第二四条 理事会は、全ての理事をもって構成する。

2 理事会に議長を置き、議長はその都度選任する。

(権限)

第二五条 理事会は、次の職務を行う。ただし、日常の業務として理事会が定めるものについては理事長が専決し、これを理事会に報告する。

- (1) この法人の業務執行の決定
- (2) 理事の職務の執行の監督
- (3) 理事長、副理事長及び常務理事の選定及び解職

(招集)

第二六条 理事会は、理事長が招集する。

- 2 理事長が欠けたとき又は理事長に事故があるときは、副理事長又は常務理事が理事会を招集する。
- 3 理事会を招集する者は、理事会の日の2日前までに、各理事及び各監事に対してその通知を発しなければならない。

(決議)

第二七条 理事会の決議は、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行い、可否同数のときは、議長の決するところによる。

2 前項の規定にかかわらず、理事（当該事項について議決に加わることができるものに限る。）の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたとき（監事が当該提案について異議を述べたときを除く。）は、理事会の決議があったものとみなす。

(議事録)

第二八条 理事会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

2 出席した理事長及び監事は、前項の議事録に署名し、又は記名押印する。

第六章 資産及び会計

(資産の区分)

第二九条 この法人の資産は、これを分けて基本財産とその他財産の二種とする。

2 基本財産は、次の各号に掲げる財産をもって構成する。

- (1) 福岡市西区大字田尻字十王田2542番1所在の工芸会ワークセンター敷地
(4,953.94平方メートル)

- (2) 福岡市西区大字田尻字十王田 2 5 4 2 番 2 所在の養護老人ホーム田尻苑敷地
(1,780.39 平方メートル)
- (3) 福岡市西区大字田尻字土屋 2 5 7 9 番 3 所在の工芸会ワークセンター敷地
(3,954.33 平方メートル)
- (4) 福岡市西区大字田尻字北浜 2 5 3 9 番 2 所在の工芸会ワークセンター敷地
(991 平方メートル)
- (5) 福岡市西区大字田尻字十王田 2 5 4 2 番地、福岡市西区大字田尻字土屋 2 5 7 9 番地 3 所在の鉄筋コンクリート造鋼板葺二階建 工芸会ワークセンター寄宿舎・事務所 1 棟
(2,588.31 平方メートル)
- (6) 同所所在の鉄骨造鋼板葺平家建 工芸会ワークセンター作業場 1 棟
(860.42 平方メートル)
- (7) 同所所在の鉄筋コンクリート造鋼板葺二階建 工芸会ワークセンター作業場 1 棟
(914.98 平方メートル)
- (8) 同所所在の鉄筋コンクリート・鉄骨造スレート葺・陸屋根平家建 工芸会ワークセンター物置 1 棟 (10.00 平方メートル)
- (9) 同所所在のコンクリートブロック造陸屋根平家建 工芸会ワークセンター物置 1 棟
(12.00 平方メートル)
- (10) 同所所在のコンクリートブロック造陸屋根平家建 工芸会ワークセンター機械室 1 棟
(6.00 平方メートル)
- (11) 同所所在のコンクリートブロック造陸屋根平家建 工芸会ワークセンター機械室 1 棟
(14.00 平方メートル)
- (12) 福岡市西区大字田尻字土屋 2 5 7 9 番地 3 所在の鉄骨造鉄板葺平家建
工芸会ワークセンター体育館 1 棟 (360.00 平方メートル)
- (13) 福岡市西区大字田尻字土屋 2 5 7 9 番地 3 所在の鉄筋コンクリート造陸屋根二階建
工芸会ワークセンター寄宿舎 1 棟 (306.96 平方メートル)
- (14) 福岡市西区大字田尻字十王田 2 5 4 2 番地所在の鉄筋コンクリート造ルーフィング葺二階建
養護老人ホーム田尻苑 建物 1 棟 (1,425.33 平方メートル)

3 その他財産は、基本財産以外の財産とする。

4 基本財産に指定されて寄附された金品は、速やかに第二項に掲げるため、必要な手続をとらなければならない。

(基本財産の処分)

第三〇条 基本財産を処分し、又は担保に供しようとするときは、理事会及び評議員会の承認を得て、福岡市長の承認を得なければならない。ただし、次の各号に掲げる場合には、福岡市長の承認は必要としない。

- 一 独立行政法人福祉医療機構に対して基本財産を担保に供する場合
- 二 独立行政法人福祉医療機構と協調融資（独立行政法人福祉医療機構の福祉貸付が行う施設整備のための資金に対する融資と併せて行う同一の財産を担保とする当該施設整備のための資金に対する融資をいう。以下同じ。）に関する契約を結んだ民間金融機関に対して基本財産を担保に供する場合（協調融資に係る担保に限る。）

(資産の管理)

第三一条 この法人の資産は、理事会の定める方法により、理事長が管理する。

- 2 資産のうち現金は、確実な金融機関に預け入れ、確実な信託会社に信託し、又は確実な有価証券に換えて、保管する。

(事業計画及び収支予算)

第三二条 この法人の事業計画書及び収支予算書については、毎会計年度開始の日の前日までに、理事長が作成し、理事会の決議を経て、評議員会の承認を受けなければならない。これを変更する場合も、同様とする。

- 2 前項の書類については、事務所に当該会計年度が終了するまでの間備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

(事業報告及び決算)

第三三条 この法人の事業報告及び決算については、毎会計年度終了後、理事長が次の書類を作成し、監事の監査を受けた上で、理事会の承認を受けなければならない。

- (1) 事業報告
- (2) 事業報告の附属明細書
- (3) 貸借対照表
- (4) 収支計算書（資金収支計算書及び事業活動計算書）
- (5) 貸借対照表及び収支計算書（資金収支計算書及び事業活動計算書）の附属明細書
- (6) 財産目録

- 2 前項の承認を受けた書類のうち、第1号、第3号、第4号及び第6号の書類については、定時評議員会に提出し、第1号の書類についてはその内容を報告し、その他の書類については、承認を受けなければならない。

- 3 第1項の書類のほか、次の書類を事務所に5年間備え置き、一般の閲覧に供するとともに、定款を事務所に備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

- (1) 監査報告
- (2) 理事及び監事並びに評議員の名簿
- (3) 理事及び監事並びに評議員の報酬等の支給の基準を記載した書類
- (4) 事業の概要等を記載した書類

(会計年度)

第三四条 この法人の会計年度は、毎年四月一日に始まり、翌年三月三十一日をもって終わる。

(会計処理の基準)

第三五条 この法人の会計に関しては、法令等及びこの定款に定めのあるもののほか、理事会において定める経理規程により処理する。

(臨機の措置)

第三六条 予算をもって定めるもののほか、新たに義務の負担をし、又は権利の放棄をしようとする

るときは、理事会の決議がなければならない。

第七章 解散

(解散)

第三七条 この法人は、法第四六条第一項第一号及び第三号から第六号までの解散事由により解散する。

(残余財産の帰属)

第三八条 解散（合併又は破産による解散を除く。）した場合における残余財産は、評議員会の決議を得て、社会福祉法人並びに社会福祉事業を行う学校法人及び公益財団法人のうちから選出されたものに帰属する。

第八章 定款の変更

(定款の変更)

第三九条 この定款を変更しようとするときは、評議員会の決議を得て、福岡市長の認可（法第四五条の三六第二項に規定する厚生労働省令で定める事項に係るものを除く。）を受けなければならない。

2 前項の厚生労働省令で定める事項に係る定款の変更をしたときは、遅滞なくその旨を福岡市長に届け出なければならない。

第九章 公告の方法その他

(公告の方法)

第四〇条 この法人の公告は、社会福祉法人福岡ろうあ福祉会の掲示場に掲示するとともに、官報、新聞又は電子公告に掲載して行う。

(施行細則)

第四一条 この定款の施行についての細則は、理事会において定める。

附 則1

この法人の設立当初の役員は、次のとおりとする。ただし、この法人の成立後遅滞なく、この定款に基づき、役員を選任を行うものとする。

会 長（理事）	井 口 末 吉
副会長（理事）	石 橋 丈 夫
全（理事）	石 橋 五 平
理 事	角 銅 利 生
全	吉 永 稔
全	入 江 信 秋

全	松	原	伍	藤
全	手	島	勇	次郎
全	北	島	留	吉
監事	田	中	嘉	三
全	田	中	常	蔵
全	篠	原	金	門

附 則 2

この定款は、平成29年4月1日から施行する。

役員等名簿

役 職	氏 名
理事長	西 憲一郎
副理事長	山田 裕嗣
常務理事	竹田 豊
理 事	渡辺 晟信
理 事	松浦 喬
理 事	龍 忠昭
理 事	藤川 保正
理 事	福嶋 利明
監 事	下村 弘一
監 事	長島 秀彦
評議員	笠 榮見子
評議員	井上 哲明
評議員	松本 清訓
評議員	本田 凜子
評議員	佐藤 剛
評議員	田中 精一郎
評議員	仲原 真由美
評議員	中島 志津男
評議員	喜代美 直一

役員等報酬規程

(目的)

第1条 この規程は、社会福祉法人福岡ろうあ福祉会（以下「当法人」という）定款第八条及び第二十一条並びに評議員会選任・解任委員会規程第6条の規定に基づき、役員（理事及び監事）及び評議員並びに評議員選任・解任委員（以下「役員等」という。）の報酬等について定めるものとする。

(報酬等の支給)

第2条 役員等については、業務に応じた報酬として別表に定める額を支給することとし、賞与及び退職手当は支給しない。

2 第1項の業務が午前・午後にまたがる場合には、食事代実費を支給する。なお、食事代は原物支給に換えることができることとする。

3 役員等が用務のため出張する場合には、当法人旅費規程（施設長）を準用して旅費を支給する。

(当法人職員給与との併給)

第3条 当法人の職員を兼ね、職員給与を支給している者の役員等報酬は、支給しないものとする。

(報酬等の支給方法)

第4条 役員等に対する報酬等は、当該会議等に出席した都度、支給する。ただし、理事長、副理事長及び常務理事については、1月分をまとめて月末又は翌月に支給することができる。

(公表)

第5条 当法人は、この規程をもって、社会福祉法第五十九条の二第一項二号に定める報酬等の支給の基準として公表する。

(改廃)

第6条 この規程の改廃は、評議員会の承認を受けて行う。

(補則)

第7条 この規程の実施に関し必要な事項は、理事長が、別に定めることとする。

附則

1 この規程は、平成29年6月19日の定時評議員会終結時より施行する。

2 役員・評議員費用弁償規程（平成5年4月1日施行）は廃止する。

別表

1 評議員

	日額
評議員会への出席	5,500円
上記の他、法人及び施設業務のための出勤	5,500円

2 理事

(1) 理事長

	日額
理事会、評議員会への出席	7,500円
上記の他、法人及び施設業務のための出勤	7,500円

(2) 副理事長

	日額
理事会、評議員会への出席	7,000円
上記の他、法人及び施設業務のための出勤	7,000円

(3) 常務理事

	日額
理事会、評議員会への出席	6,500円
上記の他、法人及び施設業務のための出勤	6,500円

(4) 上記以外の理事

	日額
理事会への出席	5,500円
上記の他、法人及び施設業務のための出勤	5,500円

3 監事

	日額
理事会及び評議員会への出席	6,500円
上記の他、法人及び施設業務のための出勤	6,500円

4 評議員選任・解任委員

	日額
評議員選任・解任委員会への出席	5,500円
上記の他、法人及び施設業務のための出勤	5,500円